

## ○一般社団法人 日本森林学会 2021 年度第 1 回（通算第 476 回）理事会議事録

日時：2021 年 4 月 26 日（月）13:00～17:20

場所：日林協会館 3 階大会議室，Web 会議システム（Microsoft Teams）を併用して開催

開催者：丹下 健

出席者：会長）丹下 健，副会長）深町加津枝，正木 隆，理事）玉井幸治，柿澤宏昭，土屋俊幸，伊藤 哲，松本麻子，井上真理子，枚田邦宏，井鷲裕司，高山範理，田中 浩，黒田慶子，船田 良，大久保達弘，横井秀一，梶本卓也，小島克己，太田祐子，監事）駒木貴彰，戸丸信弘，主事）南光一樹，山田祐亮，滝 久智，吉藤奈津子，坂下 涉，星野大介，小山泰弘，山崎理正，永野聡一郎，竹内啓恵，水内佑輔，今村直広，杉浦克明，編集部）町田庸子 [学会誌刊行センター]，事務局）稲村崇子，オブザーバー）赤羽 元 [林野庁]，戸田浩人 [第132回大会運営副委員長]，白木克繁 [第132回大会運営委員]，菊池俊一 [第133回大会運営委員]，小田智基 [次期総務主事候補]

議長：丹下 健

会場及び Web 会議システム（Microsoft Teams）にて出席者全員が問題なく参加できており，出席者が適時的確な意見表明が互いにできることを確認し，議案の審議に入った。

### 審議事項：

本理事会で議論・決定された事項は以下のとおりである。

#### 1. 学会誌のオンラインジャーナル化及びニュースレターの新設の提案

正木副会長（将来検討委員会委員長）から，将来検討委員会からの中間報告として，短期的な赤字縮減の必要性と世界的なオープンアクセス化の動向を踏まえて，2022 年からの学会誌のオンラインジャーナル化及び会員向けの有体物としてのニュースレターの新設・配布について提案された。オンラインジャーナル化には賛同が集まったが，2022 年から開始するには会員への説明が不足しないか，冊子体がなくなることで会員へのオフィシャルな情報提供媒体が不明確にならないかという意見が出た。ニュースレターについてはその位置づけと制作担当者が現時点で不明瞭であると意見が出た。議論の結果，ニュースレターの提案は退けられ，オンラインジャーナル化について定時総会で提案するために，改めてメール理事会で議論することとなった。

#### 2. 2020 年度事業報告（案）

玉井理事（総務担当）から提案され，一部の軽微な修正の後に，2021 年定時総会の承認を求めることとなった。

#### 3. 2020 年度決算報告（案）

柿澤理事（会計担当）から，提案のとおり承認され，2021 年定時総会の承認を求めることになった。本部事業は 254,878 円の赤字，大会事業は 2,252,652 円の黒字，学会全体では約 200 万円の黒字であること，本部事業の赤字について当年度予算では 244 万円赤字を見込んでいたが，前年度に比べて会費収入が 34 万円，ロイヤリティが 58 万円増加し，理事会などのオンライン化に伴い会議費が 166 万円減少した等が説明された。

#### **4. 次回理事会、定時総会、総会時のシンポジウムの持ち方**

玉井理事（総務担当）から、2021年5月24日の理事会と定時総会を現地とWeb会議の同時開催とし、公開シンポジウムを中止とすることが提案された。提案のとおり承認された。

#### **5. 第132回大会（東京農工大学）の公開合同シンポジウムや学会企画の動画公開**

土屋理事（大会担当）、高山理事（ダイバーシティ推進担当）、黒田理事（学協会連携担当）から、第132回大会での公開合同シンポジウムや各学会企画について、一部の動画を公開してもよいかという提案があった。著作権やプライバシー保護を踏まえた上での公開が承認された。今後、公開の場をどう作るかについて議論がかわされた。

#### **6. 第135回大会（2024年）の開催地区の決定**

玉井理事（総務担当）から、第135回学術大会の開催機関の推薦について、関東森林学会に依頼してよいか提案された。提案のとおり承認された。

#### **7. 森林学会ウェブサイトの全面的な乗り換え**

玉井理事（総務担当）から、現在使用しているシステムが古くウェブサイト更新に支障をきたしているため、全面的にシステムを乗り換え、正木副会長にその担当を依頼することが提案された。提案のとおり承認された。乗り換えは、大会受付が始まる11月までには終わらせたいという意見が出た。

#### **8. 主事の委嘱**

玉井理事（総務担当）から、2021年度定時総会終結時をもって退任する主事の後任として、総務担当を小田智基会員（森林総合研究所）に、JFR編集担当を吉藤奈津子会員（森林総合研究所・留任）に、表彰担当を稲永路子会員（森林総合研究所林木育種センター）に、ダイバーシティ推進担当を竹内啓恵会員（全国森林レクリエーション協会・留任）に、プログラム編成担当を荒木眞岳会員（森林総合研究所）に、それぞれ委嘱（任期：2021年定時総会終結時から2023年定時総会終結時まで。ただし、竹内会員は2022年定時総会終結時まで。）することが提案された。提案のとおり承認された。

#### **9. 特別積立金引当資金の取り崩しについて**

柿澤理事（会計担当）から、ウェブサイト改修費用を賄うために、特別積立金引当資金から100万円を取り崩すことが提案された。提案のとおり承認された。

#### **10. 2021年度予算の修正**

柿澤理事（会計担当）から、2020年度第7回メール理事会で承認済みの2021年度予算について、半期決算の期末決算への変更、企画費3万円の減額（Web会議契約費が不要となったため）、特別積立金引当資産（100万円）の取崩し、2020年度決算にもとづいた「会誌等刊行費支出」の減額が提案された。提案のとおり承認された。

#### **11. JFR規掲載済み特集の書籍化**

伊藤理事（JFR編集担当）から、25巻2-3号に掲載した特集「Long-term monitoring and research

in Asian university forests: towards further understanding of environmental changes and ecosystem responses」の書籍出版の可否について審議が提案された。引用のあり方、著作権、書籍販売収入に関して、Guest Editor-in-Chief の尾張敏章会員から Routledge 社に問い合わせた内容について報告があった。学会が著作権を所有し、書籍販売から得られる純収益に対してロイヤリティを得られることが確認された。提案のとおり承認された。

## 12. 2020 年度林業遺産の認定

深町副会長から、昨年 11 月末日の締め切りまでに、2020 年度林業遺産候補として 4 件の応募推薦があり、一部は追加資料の提出を求めるなど、林業遺産選定委員会による審査の経過が報告された。新たな林業遺産としてその 4 件が提案され、提案のとおり承認された。認定されたものは、「川浦山御用木御伐出絵図」「秋田藩家老渋江政光の林業思想に関する古文書及び石碑」「坪毛沢ヒバ木製治山堰堤群」「甲賀の前挽鋸製造および流通に関する資料群」である。

## 13. 「2-2 日本森林学会表彰規則運用内規」の改定

井鷲理事（表彰担当）から、功績賞の審査・選考方法について明記することが提案された。提案のとおり承認された。

## 14. 「2-3 Journal of Forest Research 論文賞審査・選考内規」の改定

井鷲理事（表彰担当）に代わって伊藤理事（JFR 編集担当）から、論文賞審査における評価委員の選任手続きの簡素化が提案された。提案のとおり承認された。

## 15. 「2-6 日本森林学会誌編集委員会内規」の改定

正木副会長（日林誌編集担当）から、編集委員長補佐の位置づけの追加、特集原稿の扱いの追加が提案された。提案のとおり承認された。

## 16. 「2-7 Journal of Forest Research 編集委員会内規」の改定

伊藤理事（JFR 編集担当）から、副編集委員長の新規設置、常任編集委員の委嘱期間の変更、条番号と項番号の記述方法の変更が提案された。提案のとおり承認された。

## 17. 前回までの議事録

2020 年度第 4 回（通算第 475 回）理事会・連携学会合同会議、1 回のメール理事会（第 7 回）の議事録が承認された。

### 報告事項：

本理事会で報告された事項は以下のとおりである。

#### 1. 第 132 回大会（東京農工大学）の開催報告

土屋理事（大会担当）及び船田理事（木材学会連携担当）から、木材学会との合同大会として開催し、両学会間の連携がスムーズに実施され成功裏に終わったと総括された。公開合同シンポジウム「シン時代の森林・木材を考える」に通年よりも多い 1,381 名の視聴参加があり盛況であったこと、大会参加者は 1,956 名（木材学会大会参加者との総数）で、発表件数 655 件（口頭 244

件、ポスター411件)であったこと等が報告された。オンライン大会は事前準備だけでなく大会期間中の対応が大変であること、口頭発表について入念な事前練習により大会期間中のトラブルを少なくできたこと、一方でポスター発表についてトラブル対応に終日対応する必要が出たことが報告された。

梶本理事(プログラム編成担当)から、プログラム編成委員と公募セッション・企画シンポジウムのコーディネータを対象とした大会アンケートの集計結果が報告された。

議論の中で、告知の重要性と、その周知の難しさが共有され、柔軟な即時性の高い大会運営のために学会と大会のウェブサイトは切り離した運用が好ましいという意見が出た。

## 2. 第132回大会(東京農工大学)の学会企画の報告

黒田理事(学協会連携担当)から、オンデマンド配信で行った「森林科学を学んだらどんな仕事があるのか?」が好評であったことが報告された。

大久保理事(国際交流担当)から、「帰国留学生会員およびアジアの林学会とのネットワークフォーラム」に9件の発表があり、参加者に大会参加証明書(Certificate of Attendance, 大会会長名)、大会発表証明書(Certificate of Presentation, プログラム編成委員長名)を発行したこと、オンライン交流会に10名の参加があったことが報告された。

太田理事(中等教育連携推進担当)から、第8回高校生ポスター発表の概要が報告された。発表件数は25校34件、当日参加者は70名(概数)、最優秀賞2件、優秀賞3件、特別賞2件を表彰し、表彰式に併せて学会企画パネルディスカッション「大学で森林を学ぶ」を実施したことが報告された。また、国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」の助成によりポスター集の印刷や動画制作謝礼等を行ったこと、大日本山林会の支援により、受賞校記念の楯、参加記念品や書籍を贈呈したことが報告された。コロナ禍でのオンライン開催の場合、発表日が土日にかかる、高校生が学校に行けず、発表ができないというデメリットがあった。

## 3. 第133回大会(山形大学)の開催準備報告

玉井理事(総務担当)から、大会運営委員会の組織、開催日程と開催場所について報告された。現地開催を想定して準備を進め、現地開催が不可能になった場合にオンライン開催に切り替える案が報告されたが、直前の切り替えは会員にとっても困ること、現地とオンラインのハイブリッド開催の可能性等について議論が交わされた。結果、提案とは変わり、オンライン開催を軸に進めて行く意見が多かったため、オンライン開催を基本に再検討することになった。

## 4. 第134回大会(関西地区)の開催準備報告

玉井理事(総務担当)から、応用森林学会から開催機関を鳥取大学とするオンライン大会を予定していることが報告された。それに対し、現地開催を含め応用森林学会に再検討を依頼することにした。

## 5. 総務担当からの報告

玉井理事から、2020年度事業報告についての監事監査、第144回までの学術大会の開催地区の検討、日本農学会シンポジウムの概要、3件の共催・後援・協賛依頼の承認、会員動向について報告された。

## 6. 会計担当からの報告

柿澤理事から、2020年度決算報告についての監事監査について報告された。

## 7. 日林誌編集担当からの報告

正木理事から、投稿審査状況、J-STAGE Dataのパイロット運用の経過報告とそれにかかる「日本森林学会誌投稿規定」の改定、「日本森林学会誌に掲載された学术论文のデータの公開に関する基本方針」の新設及び著者向けの「論文データ公開の手引」の新設、編集委員1名の増員、「日本森林学会誌編集方針」の改定、投稿用ウェブサイトを示している「日本森林学会誌の目的と分野」の改定について報告された。

## 8. JFR 編集担当からの報告

伊藤理事から、出版状況、常任編集委員の途中交替、2020年の予想IFが1.164であること、特集号3つの進捗（繰り下げ掲載1、原稿募集中1、原稿募集予定1）、Invited Reviewの進捗（依頼中）、カラー印刷ミスの発生について報告された。

## 9. 森林科学編集担当からの報告

松本理事の代理として坂下主事から、編集委員5名の交代、主事1名の交代、発行状況が報告された。

## 10. 広報担当からの報告

井上理事及び小山主事から、学会大会開催にかかる情報発信の協力、メールマガジンの発行状況、ウェブサイトの更新記録について報告された。

## 11. 表彰担当からの報告

井鷲理事から、第132回大会の授賞式及び受賞者講演会について300名以上の視聴参加があったこと、第132回大会の学生ポスター賞は151件の応募があり16名に賞を授与し表彰式に90名程度の視聴参加があったこと、学生ポスター賞の選考にかかる負担軽減が達成されつつあるが更なる工夫が必要であること、1年間に予定されている主な学術賞、日本学術振興会賞に会員からの応募がなかったことが報告された。

## 12. ダイバーシティ推進担当からの報告

高山理事及び竹内主事から、第132回大会における学会企画におけるダイバーシティ推進シンポジウム・木材学会との合同企画（参加者95名）及び女性会員を中心とした情報共有イベント（参加者21名）の開催状況、第132回大会における託児等の補助、男女共同参画学協会連絡会運営委員会への出席、委員4名の増員予定について報告された。

## 13. 木材学会連携担当からの報告

船田理事から、木材学会の状況が報告された。合同大会ほどの規模でなくとも、今後も木材学会との連携の頻度を高める共催セッションなどがあってもよいという意見が交わされた。

## 14. 林業遺産担当からの報告

深町副会長から、2021年度の林業遺産の選定スケジュールについて報告された。

#### **15. 将来検討将来検討委員会からの報告**

正木副会長（将来検討委員会委員長）から、赤字体制の改善が必要であるが会費の値上げは行わないこと、30代の若い研究者が魅力を感じる学会へと体質を変えていくための委員からの提案について報告があった。

#### **16. 将来検討委員会 学術大会運営検討小委員会からの報告**

玉井理事（将来検討委員会 学術大会運営検討小委員会委員長）から、学術大会の運営と大会運営規則について及び連携学会の問題点や森林学会との関係について、小委員会での議事録が報告された。

**議事録作成者：**玉井幸治，南光一樹